

# 調査研究から

## 平成 24 年コレクターによる イセエビプエルルス幼生の採集結果

イセエビは磯根資源として重要であり、これまでに漁場造成や資源管理など資源の増大、安定に向けた取り組みを行ってきました。また、本種の漁獲量予測の検討などを行うため、海藻を模して作製したコレクター（写真1）を用いて昭和 50 年からプエルルス幼生（写真2）の採集を継続して行っています。平成 24 年もコレクター5基を下田市白浜の板戸港の岸壁から垂下して、4月から12月までの間、採集を行いました。



写真1 コレクター



写真2 プエルルス幼生

平成 24 年のコレクターによるプエルルスの採集尾数は5月に2尾、7月に6尾、8月に2尾、9月に6尾、10月に1尾の計21尾、稚エビの採集尾数は、5月に1尾、6月に

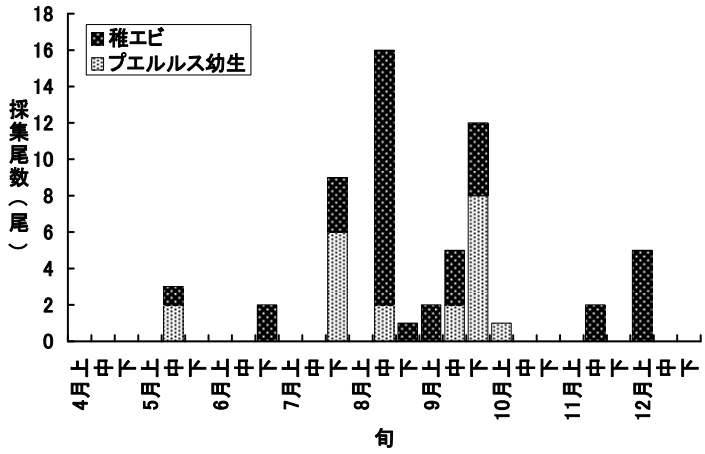


図1 コレクターによるプエルルス幼生及び稚エビの採集尾数（平成 24 年）

2尾、7月に3尾、8月に15尾、9月に9尾、11月に2尾、12月に5尾の計37尾でした（図1）。

プエルルス幼生の採集尾数は、黒潮の接岸距離が近くなり、台風等が接近して時化になることで増加することが知られています。

平成24年の黒潮流路は時折伊豆半島から遠く離れるC型の時期がありましたが、伊豆半島近くを通過するN型やB型で推移したため、プエルルス幼生が採集されたと思われます。また、プエルルス幼生の着底数が多かったため、稚エビの採集尾数も多くなったと思われました。

平成2年から平成24年までの年別のコレクターによるプエルルス幼生及び稚エビの採集尾数の推移を示しました（平成4年を除く）（図2）。プエルルス幼生及び稚エビの採集尾数は平成20、21年の2年間は黒潮流路が概ねC型であったために少なくなっていました。平成23年は平成22年よりさらに多く、イセエビ刺網でも平成22、23年に着底したと思われる子エビが多く採捕されていると聞きます。

沿岸に着底したプエルルス幼生は2年後に体長13cm以上の漁獲サイズまで成長することから、平成25年以降のイセエビ漁期に期待したいところです。

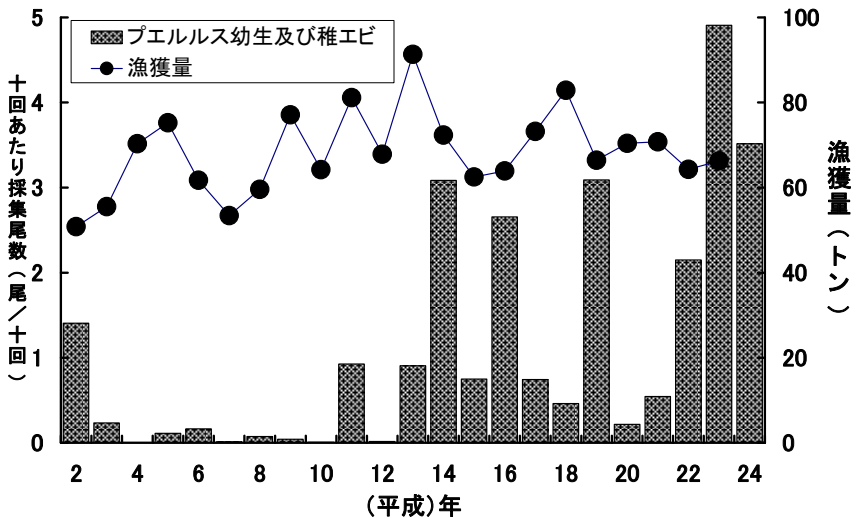


図2 プエルルス幼生及び稚エビの採集尾数と南伊豆地区のイセエビ漁獲量の推移

(飯沼紀雄)